

「情報処理教育」をめぐるって

本学における初等「情報処理」教育は1985年計算センターが情報処理センターに改組され情報処理実習室が整備された際、実習と講義を合わせた「情報科学」が教養部で開講された時に始まる。1989年に総合科目「情報科学」が学部教官の支援を受け開設し、教養部の「情報処理」教育の充実が図られた。そして1991年の汎用機ACOS930への更新に際し教養部内にも情報処理実習室が設置され、履修学生数も1992年には1年次学生の40%余にまで拡大した。

1994年の総合情報処理センターへの改組拡充で情報処理教育機器が整備され、1996年のセンターの増築で情報処理実習室が設置され教育環境が整った。一方、1995年から大学改革の一環としてカリキュラムの大幅見直しが進み、教養部担当の一般教育に代わって全学担当制のもと共通教育が始まった。その中で情報の多様化・高度化に対応し「情報処理（演習）」が全学生必修科目としてスタートした。

本学の情報処理教育はおおむね順調に展開されてきたと思うが、共通教育が始まって3年目を迎え、本学の「情報処理教育」の現状と将来への展望を探ってみるのは意味ある事と考える。情報処理教育を支援するセンターとしてもその中から今後のあり方を汲みとって行きたいと考える次第である。情報処理教育を担当する「情報処理」分科会のご協力を仰ぎこの小特集を組むこととした。平成9年度前期の「情報処理（演習）」の授業を担当された教官を中心に現状の問題点と将来への展望を含め、忌憚のないご意見を寄せていただいた。ご協力下さった分科会の皆様に感謝申し上げます。